


平成22年2月10日

福井市長 東村新一様

福井市の道づくり懇談会

会長 川と洋司 

福井市の道づくりについて（提言）

表記の件について、計4回にわたり当懇談会において慎重に議論を重ねた結果を踏まえ、ここに提言します。

福井市においては、この提言に基づき、現在、改訂を進めている福井市都市計画マスタープランが都市づくりの理念として掲げる「暮らしの豊かさを実感できる『歩きたくなる』まち」の実現に向けて、下記の総括的な意見に十分に配慮しつつ、「造る」ことを基本とした従来の道路整備から大きく舵を切り、「使う・守る」ことを重視した、『次代につなぐ、暮らしの豊かさを支える道づくり』に努めるよう望みます。

記

1. 量から質、利便性から心の豊かさが求められる時代において、市街地を中心として計画的な都市基盤整備を推進し豊かな道路ストックを有する福井市の長をを活かし、車中心の道路整備から歩行者や自転車、公共交通を重視した『道づくり』を積極的に進められたい。
2. 特に、地域住民の快適な暮らしを支える生活系道路については、楽しさや喜び、『歩きたい』と感じる地域住民の想いが育まれるよう、安全性を確保しつつ、緑豊かな道路景観の形成など個性を大切にしたい愛着を持てる『道づくり』に努められたい。
3. 一方で、人々の交流が活発化し生活圏が広域化する時代背景や市町村合併に伴う市域の拡大などに配慮し、中心市街地と周辺地域、周辺市町を繋ぐ幹線道路機能の維持・強化など、様々な出合いや交わりを育み、地域住民が安心して暮らせる適切な『道づくり』に努められたい。
4. 「道路を造る」ことから「道路を使う・守る」ことへ転換するため、絶えず既存ストックの有効活用や適切な維持管理に努めつつ、市民との積極的な情報交換を行い、多様な主体と連携・協力した協働の『道づくり・道づかい』に努められたい。

以上